

平成30年8月8日

各位

神奈川県川崎市高津区坂戸 3-2-1
オンコセラピー・サイエンス株式会社
代表取締役社長 山本 和男
(コード番号 4564 東証マザーズ)
(問い合わせ先) 管理本部 高瀬 由美子
電話番号 044-820-8251

新規抗がん剤開発に関する論文公表のお知らせ

この度、元シカゴ大学中村祐輔教授（現 公益財団法人がん研究会 がんプレシジョン医療研究センター 所長）のグループと当社との共同研究により、がん標的分子であるメチル化転移酵素 SUV39H2を阻害する低分子化合物に関する論文（表題「Development of novel SUV39H2 inhibitors that exhibit growth suppressive effects in mouse xenograft models and regulate the phosphorylation of H2AX」）が、Oncotarget誌に公表されましたので、お知らせいたします。

メチル化転移酵素SUV39H2（Suppressor of variegation 3-9 homolog 2）は、中村祐輔研究室のゲノム包括的遺伝子解析により、新規抗がん剤標的として同定されたものです。乳がん、肺がんなどを含め多くのがん種で発現が高くなっており、また、正常な組織での発現がほとんどないため、これに作用する薬剤は多くのがん種に適応でき、副作用のリスクが低いと考えられます。

本論文では、SUV39H2に対して極めて高い阻害活性を有する新規低分子化合物を報告しています。同低分子化合物が、ヒト乳がん・肺がん由来の培養細胞を死滅させることや、同細胞を利用した動物試験(マウス)において顕著な腫瘍増殖抑制効果を示すことが明らかにされています。

また、中村教授らのグループの以前の研究により、本酵素SUV39H2は、DNA損傷を起こす抗がん剤や放射線治療に対するがん細胞の耐性を高めることが明らかにされました。本研究では、DNA損傷を起こす既存抗がん剤ドキソルビシンの腫瘍増殖抑制効果が、今回報告した新規化合物との併用により増強されることが、培養細胞を用いた実験と動物実験により示されています。

このように本研究により、当社が開発中のSUV39H2阻害化合物ががん治療において有効である可能性が示唆されており、今後、開発スピードをさらに速めて、がん治療に貢献していきたいと考えております。

論文内容の詳細につきましては、Oncotarget誌の以下のWebページをご覧ください。

<https://doi.org/10.18632/oncotarget.25806>

（上記リンクでアクセスできない場合は直接URLを入力してください）

以上